

# 8th International Conference of Asian Society for Precision Engineering and Nanotechnology (ASPEN2019)

東京大学 大学院工学系研究科 精密工学専攻  
教授 高増 潔

(平成 30 年度 国際会議等準備及び開催助成 AF-2018055-V2)

キーワード：精密工学，塑性加工，生産工学

## 1. 開催日時

2019 年 11 月 12 日（火）～11 月 15 日（金）

## 2. 開催場所

くにびきメッセ（島根県松江市）

## 3. 国際会議報告

### 3・1 目的

ASPEN(Asian Society for Precision Engineering and Nanotechnology)は、アジア地域における精密工学とナノテクノロジーのための学会で、各国および地域の学会や組織の連合体として構成されている。現在は、日本、韓国、中国、台湾、香港、シンガポール、オーストラリアが理事会に参加し、隔年で国際会議を開催している。10 年ぶりに日本で開催される ASPEN2019 には、各国より 358 名の研究者が参加し、高いレベルの研究発表が行われた。バンケットなどを含め、新しい産業環境と今後の研究開発方向について話し合う良い機会となる。この分野の若手研究者の技術交流の場としても大きな意義を持っている。

### 3・2 会議の概要

ASPEN は 2007 年に日本、中国、韓国を中心に設立され、現在は、日本、韓国、中国、台湾、香港、シンガポール、オーストラリアが理事会に参加し、隔年で国際会議を開催している。日本では、2009 年に北九州で精密工学会が主催して国際会議を実施した。アジア地域は精密工学の分野で、最大の市場を持ち、研究者も最大規模となり急激に成長している。ASPEN では特に若手の研究者の相互連携を重視して、若手研究者のネットワークを作ることに成功している。

ASPEN2019 は、島根県松江市くにびきメッセで開催された。各国より 358 名（日本：182 名、中国：74 名、韓国：39 名、台湾：33 名、香港：8 名、その他）の参加者が集まった（図 1）、会議では、272 件の発表（キーノート講演：7 件、オーラル講演：189 件、ポスター講演：76 件）があり、高いレベルの研究発表が行われた。発表内容は、精密機械工業の発展に寄与する加工・計測・制御に関する科学技術、およびそれらの基礎となる理工学の分野全体がターゲットとなっていた。40 件以上の発表が、国際的な協力

で行われており、この分野の国際協力が進んでいることが示された。また、発表者は、30 歳以下が 60%以上を占め、平均年齢は 31 歳で、若手の発表が大部分となっている。

オープニングでは、ファナック株式会社榊原氏の講演が行われ（図 2）、セッションでは、韓国、中国、台湾、香港、シンガポール、オーストラリアの各国からキーノート講演が行われた。



図 1 集合写真（くにびきメッセ）



図 2 オープニングの様子

### 3・3 会議における活動

国際会議の活動として、初日に Welcome Reception が行われ 130 名の参加があった。2 日目には Young Researcher Night が開催され、120 名の若手を中心とした研究者が参加し、パーティだけでなく短い研究発表および意見交換が行われ、若手のグローバルな交流が進められた。3 日目には、バンケットをフォーゲルパークで実施され、250 名の参加者があった（図 3、図 4）。さらに、4 日目には、ツアーとして 80 名が参加し、島根富士通の工場および出雲大社を訪問した。

ASPEN を構成する各国および地域により ASPEN の理事会が運営されている。ASPEN の理事会は、2 日目の昼に開催された（図 5）。ASPEN 理事が 24 名（日本：6 名、中国：3 名、韓国：4 名、台湾：5 名、香港：3 名、シンガポール：2 名、オーストラリア：1 名）が参加し、ASPEN の運営について議論が行われた。理事会では、理事会メンバーの更新および確認を行い、今回から理事会が主導して実施されている ASPEN における表彰方法について確認し、Best Paper Award を 13 名、Young Researcher Award を 14 名選択され、バンケットで表彰が行われた。今後の開催について ASPEN2021 をシンガポール、ASPEN2023 を香港で行うことを決定した。

### 4. まとめ

アジアの各国から多くの研究者が参加し（図 6）、バンケットなどを含め、新しい産業環境と今後の研究開発方向について話し合う良い機会となった。ASPEN の目的のひとつである、この分野の若手研究者の技術交流の場としても大きな進捗が行われた。

### 謝 辞

本国際会議の開催にあたり、開催費用の援助を頂いた公益財団法人天田財団に対し深甚なる感謝の意を表する。



図 3 バンケット（フォーゲルパーク）



図 4 バンケットでの表彰



図 5 ASPEN 理事会

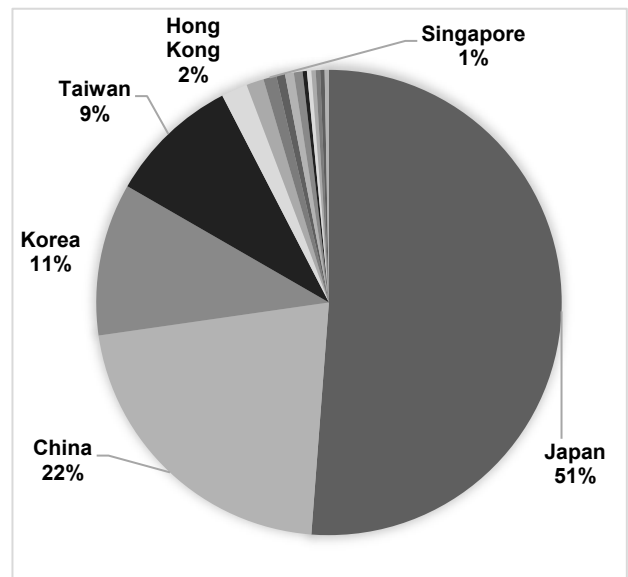


図 6 参加者の分布（全 358 名）